薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０２０年
７月８日
第９７号

ウスベニアオイ（アオイ科）

今、第一圃場では白く、中心部が青紫色 の花が見られます。ヨーロッパ南部原産 で、英名がコモンマロウ、別名がブルーマロウ。ヨーロッパの民間薬で、全草をうがい薬、咳止めとして利用されてきました。また、花を乾燥させて、ハーブティーとしても利用し、別名の通り、「青紫色のお茶」が楽しめます。この青紫色はアントシアジニンによるもので、レモンを浮かべると一瞬で色がピンクに変化するのが楽しめます。一度お試しください。

沼地（marsh）に生えるマロウ（mallow）からマーシュマロウ、この植物は粘液を豊富に含み、古代エジプトで、根をハチミツとともに煮詰めて出来た塊から、マシュマロというお菓子の原型が作られました（現在のマシュマロは、この植物は使用されず、ゼラチンと卵白が使用されています）。

今、こんな草木が
たのしめますよ！！

エビスグサ（マメ科）

第一圃場では、ハブソウ、エビスグサの花が見られます。エビスグサは、北米原産の一年草です。花の後に出来る果実は、長さが15cm位で弓状に垂れ下がり、その中に艶のあるひし形の種子がきれいに並びます。この種子が、生薬、決明子（ケツメイシ）となり、日本では民間薬の瀉下薬として、漢方医学では祛風明目の薬能で洗肝明目湯に配合され、目の充血や痛みに対して使用されます。

また、現在ではこの種子を焙煎して、ハブ茶の原料としても利用します。本来のハブ茶の原料は、ハブソウの種子ですが、収穫量の関係で代用されたエビスグサの種子が、現在ではハブ茶の原料となりました。

なお、エビスグサの漢名が決明、河原に生える決明という名のカワラケツメイ（マメ科）は、花期の全草を山偏豆（サンヘンズ）といい、浜茶（はまちゃ）という茶飲料として飲用するほか、瀉下や利尿を目的にした民間薬として利用されます。